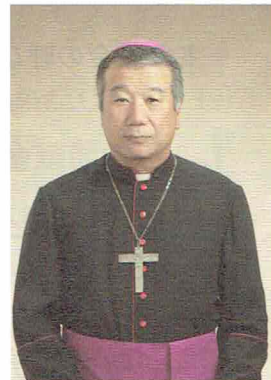




大分教区の主任神父様、 そして信徒の皆様



＋ 主の平和

新型コロナウイルス感染症問題のため、四旬節のはじめから、ほぼ復活節の終わりまで、実に12週にわたり、主日の公開ミサができませんでした。御昇天祭からミサを再開しておりますが、第二波、第三波が来ると予想されています。引き続き警戒が必要です。罹患者に自覚症状がない場合があるということが今回の新型コロナウイルスの厄介なところだと言います。「罹患しないように」よりも「罹患させないように」注意することが大切かと思えます。

ミサ参加が叶わなかった四旬節と復活節は、私たちキリスト者にとってはとても大切な時期です。イエス様の死と復活という、救いの御業の中心的出来事を記念する季節で、新しく洗礼を受ける人たちと共に回心の道を歩み、復活したイエス様と共に生きるという信仰生活の基本を再確認する季節でありました。例年、断食と愛の実践に励む信徒の信仰実践を手助けするために、カリタスジャパンなどが活動を展開しますが、今年は公開ミサ中止のため、それが叶いませんでした。カリタスジャパンにとって四旬節献金は、年間活動の3分の1を占めており、今年は国内外の支援活動に大きな支障を来す恐れが生じて参りました。そこで5月26日に開催された大分教区司祭評議会は、この問題を取り上げて検討した結果、司教が信徒の皆さんに手紙を書いてお願いするということになりました。

大分教区は小規模な小教区が大半で、自分の小教区の維持にも支障を来しているという声も聞かれました。そこで、自小教区の維持を優先しながらも、各小教区で献金日を決めてご献金頂けないかと思えます。

2020年5月31日 聖霊降臨祭に

カトリック大分教区司教

パウロ 濱口末男

主な献金の呼びかけは以下の通りです。

1. 四旬節献金のお願い(カリタスジャパン)

7月12日(日)に各小教区で集金して頂くことになりました。ご協力のほど、お願いいたします。

2. 新型コロナウイルス感染症緊急募金(カリタスジャパン)

4月10日、教皇庁総合の人間開発局と国際カリタスは共同で、全世界のカトリック教会に対して、救援活動の推進とそのための資金提供の協力を呼びかけました。日本国内からも支援要請が届いています。詳しくは、カリタスジャパンの文書^{*1}を参照して下さい。

3. 大分教区カリタス

教区カリタスの活動にも、引き続きご協力下さい。通常の方法である一菜募金^{*2}をお願いすると共に、これを機会に、一菜募金の精神が教区内に浸透し、私たちの間で愛の業が益々盛んになることを願っています。

4. 聖地のための献金^{*3}

毎年、聖金曜日に行なわれる献金ですが、今年は新型コロナウイルス感染症のため実施が困難でした。そこで、教皇庁東方教会省からこの献金を今年は十字架称賛の祝日に近い日曜日(9月13日)に実施してほしいとのことです。

5. 世界広報の日の献金

5月17日の「広報の日」の献金をまだ集めていない小教区は、献金日を11月15日(日)に移動して下さい。

※1 新型コロナウイルス感染症緊急募金の呼びかけ

2019年末から世界中で猛威を奮っている新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大に伴い、カリタスジャパンでは緊急支援募金を開始しました。世界レベルでの終息までには長期間かかるとの見込みもあり、今後さらに被害が増えることが予想されます。このような中、お寄せ頂いた募金は、国内外において、具体的に次の点を重点対象として支援したいと考えています。

- ① 住まいの確保：感染から身を守るための家や衛生環境の整わない路上生活者や難民の方々、自粛規制により住む家を失った方々（ネットカフェ住民など）。
- ② 食糧衣料の確保：雇止めや解雇、倒産などによる生活困窮者への支援。
- ③ 居場所の確保：DVなどにより安心して過ごす居場所のない方々（子どもたちなど）。
- ④ 滞日外国人のケア：外国人労働者、技能実習生、難民申請者、入管被收容者など。また難民移住移動者委員会から1000万円の支援要請がカリタスジャパンの方に寄せられています。
- ⑤ 優先される方々へのサポート：高齢者、障がいをもった方々など、生活上のサポートが必要な方々。
- ⑥ 情報の保証：言語、障がい、独居高齢者、外国人などの理由で情報にアクセスできない方々への情報の提供。
- ⑦ 医療支援：医療物資が届かない医療機関への支援、風評被害対策など。（必要に応じて支援対象の範囲を変えることがございます。）

※2 「一菜募金」とは、毎週金曜日の小斎をより効果的に実践するために、この日の食事の中でおかずを一品犠牲して、それに相当する金額を困っている人たちのために捧げることです。

※3 14世紀中頃、教皇クレメンス6世は、パレスチナ各地の巡礼所とヨーロッパからの巡礼者保護をフランシスコ会に委託しました。その後、政情不安定な聖地で苦勞している修道者たちを支えるために行われるようになった献金は、いつのころからか主の受難と死を記念する聖金曜日に捧げられるようになりました。そして教皇レオ13世は1887年、カトリック教会の全ての小教区にこの聖地のための献金を命じました。

全世界の教会からローマ教皇庁に集められる献金は、現在、イスラエル、ヨルダン、キプロス、パレスチナ自治区内にある数多くの巡礼所や聖堂などの維持管理に充てられる他、聖地の貧しい兄弟のための福祉施設や教育施設の運営、奨学金や生活保護などのために使われています。

聖母への祈り 1

聖マリア、
あなたは救いと希望のしるしとして、
いつもわたしたちの歩みを照らしておられます。

病人の希望であるあなたに信頼して祈ります。
あなたは十字架の下で、揺るぎない信仰をもって、
イエスと苦しみをともにされました。



「ローマの民の守護者*」であるマリア、
あなたはわたしたちに必要なものをご存じです。
わたしたちはあなたがそれを与えてくださると信じています。
ガリラヤのカナでなさったように、
この試練の後に喜び祝うときが再び訪れますように。

愛である神の母マリア、わたしたちを助けてください。
わたしたちが御父のみ心に応え、
イエスのことばに従って生きることができますように。
イエスはわたしたちの苦しみをその身に負い、
わたしたちの悲しみを引き受け、
十字架を通して、
わたしたちを復活の喜びに導いてくださいます。
アーメン。

神の母聖マリア、
あなたのご保護により頼みます。
苦難のうちにあるわたしたちの願いを聞き入れてください。
栄光に輝く幸いなおとめよ、
あらゆる危険から、いつもわたしたちをお救いください。

* 教皇司式の典礼で用いられる聖母子のイコン「Salus Populi Romani」(右上)から取られている。
このイコンはローマの聖マリア大聖堂にあり、これまでに疫病の終息を願って祈りが捧げられてきた。教皇フランシスコは3月15日、この度のパンデミック終息のためにこの前で祈られた。